

S-RED 通信

Vol.16

北海道大学 産学・地域協働推進機構 S-RED (Society-Region Emergence Department) 社会・地域創発本部

第 5 回参画機関会議

北大 COI-NEXT ころとカラダのライフ デザイン 共創拠点は 2 月 7 日、第 5 回参画機関会議を Base Q (東京ミッドタウン) にて開催しました。対面開催となった今回の会議には、会場とオンライン合わせて約 60 名が参加し、ワークショップでは活発な意見交換が行われました。

【今回のアジェンダ】

- ① 参画機関と拠点関係者の交流
- ② 5 つの研究開発課題の進捗報告
- ③ ワークショップ：研究開発課題の社会実装



ワークショップで共有された意見の一部をご紹介します。

- ★ (例えばプレコンセプションケアの) 情報をデータ化すると、検索したこと以外出てこない恐れがある。本のように重要な情報が一元化された網羅的に学べるサービスがあると良い。
- ★ 研究の透明性を高めて、無関心層にどうアプローチしていくかが課題。
- ★ 気づきの共有や研究内容を議論できる場をつくり、それを持続させていく仕組みづくりが必要ではないか。
- ★ 研究開発課題や拠点での活動の社会的意義について、市民が腹落ちしないと社会実装は難しい。(研究開発課題や拠点での活動の意義について) 市民が理解しやすいサービスを提供するといいかもしれない。
- ★ 未就学児とその親にプレコンセプションケア教育をすることで、親も子どもも変わっていくと思う。
- ★ 少子化について世界ではいろいろな施策が講じてられているが、全体的な傾向として少子化は止まっていない。私たちは、問題の本質をまだ見抜けていないのかもしれない。本質の課題をどのように発掘していくかが今後の課題ではないか。

拠点では今回の参画機関会議での議論を踏まえて、2023 年度の実施計画を仕上げていきます。ご参加頂いた皆様、誠にありがとうございました。次回のご参加もお待ちしております！

若い世代と考える札幌のまちづくり



U35-SAPPORO、札幌市、北大 COI-NEXT ころとカラダのライフデザイン共創拠点が共催する札幌市のまちづくりをテーマにしたイベントが1/15(日)に北大FMI 国際拠点で開催され、約100人が参加しました。

※ U35-SAPPORO：札幌市在住のおおむね22～35歳を中心とした、つながりを生み出すプラットフォーム。

トークセッションでは札幌市の秋元克広市長、U35-SAPPORO 発起人の柴田涼平氏とS-REDの加藤智也特任助教が登壇しました。秋元市長は第2次まちづくり戦略ビジョン(2022～2031)について説明し、「札幌市民の生活が豊かになるためには、地域で価値のあるものを新たにつくる必要がある。また、毎年課題となる雪は宝にもなるので、効果的な使い道を考える必要がある。ぜひ若い人たちからアイデアを頂きたい。」と呼び掛けました。

柴田氏は「若い世代がまちづくりのチャンスを1人でつかんで行動するのは大変なので、同じ思いを持つ仲間が存在がとても重要。U35-SAPPORO がそのプラットフォームとして発展していければ。」と話しました。

2022年4月に関東から引っ越してきた加藤氏は札幌の印象について聞かれ、「(札幌は)住みやすい。文化や芸能に触れる場がもっと身近にあればさらにいいと思います。」と述べました。

トークセッション後に開催されたワークショップでは、ウェルネス、スマート、ユニバーサルの3つのテーマでワークショップが行われ、活発な意見交換が行われました。S-REDの田宮一樹氏はワークショップのインプットトークに登壇し、プレコンセプションケアの概要と重要性を説明しました。



若い世代の皆様と互いの取り組みや想いを交わし、札幌の多様さと熱気を感じました。COI-NEXTの取り組みにも多くの共感をいただき、この輪を大事に、共に良い社会づくりに取り組んでいけたらと思っています。(S-RED 加藤智也氏)



社会課題に対して感度の高い方が集まっており、質疑の時間でも参加者がどんどん喋るなど熱気あふれるイベントでした。僕たちが目指す社会像に若い世代が関心を持つきっかけになったと思います。(S-RED 田宮一樹氏)

#NEWS

9価 HPV ワクチンが 2023 年 4 月から定期接種対象へ

2022/11/18に行われた第41回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会で、9価 HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンが 4 月から定期接種化され、またキャッチアップ接種に適用されることになりました。

詳細：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29181.html

HPV は性交渉を通じて男女ともに感染する可能性があります。子宮頸がんや口腔咽頭がんなど、様々ながんに進展しうる前がん病変を含めた広い疾患の原因となります。

感染してもほとんどの場合ウイルスは自然に消えますが、持続的に感染すると疾患の原因となります。女性の場合、ある種の型（最も頻度が高いのは HPV16 型と 18 型）に持続感染し適切に治療されなければ、子宮頸がんに進展する可能性があります。

日本では毎年約 1.1 万人の女性が子宮頸がんになり、約 2,900 人の女性が亡くなっています。HPV ワクチンは HPV16 型と 18 型の感染を防ぐことができ、その効果は 12 年間維持される可能性があります。海外や日本で行われた調査では、HPV ワクチンが子宮頸がんの前がん病変を予防すること、また、接種が進んでいる一部の国で行われた調査では、子宮頸がんそのものを予防する効果があることがわかってきています。

北大 COI-NEXT こころとカラダのライフデザイン共創拠点では、HPV ワクチンをプレコンセプションケアを支える 1 つの柱として捉えており、イベントや検討会を通して効果的な周知方法について議論をさらに深めていきます。

出典：
厚生労働省（最終アクセス 2023 年 2 月 9 日）
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>

HPV ワクチン WHO ポジションペーパー（2017 年 5 月）厚生労働省健康局健康課予防接種室仮訳（最終アクセス 2023 年 2 月 9 日）
<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000838244.pdf>

今後のイベント（予定）

03/02 北海道大学×日立北大ラボ Society 5.0 第 4 回フォーラム 2023 "北海道の未来"

詳細は[コチラ](#) 申し込みは[コチラ](#)

03/18 OASOBI（おあそび）in 小樽

S-RED 通信の
バックナンバーは
QR コード
または[こちら](#)から

